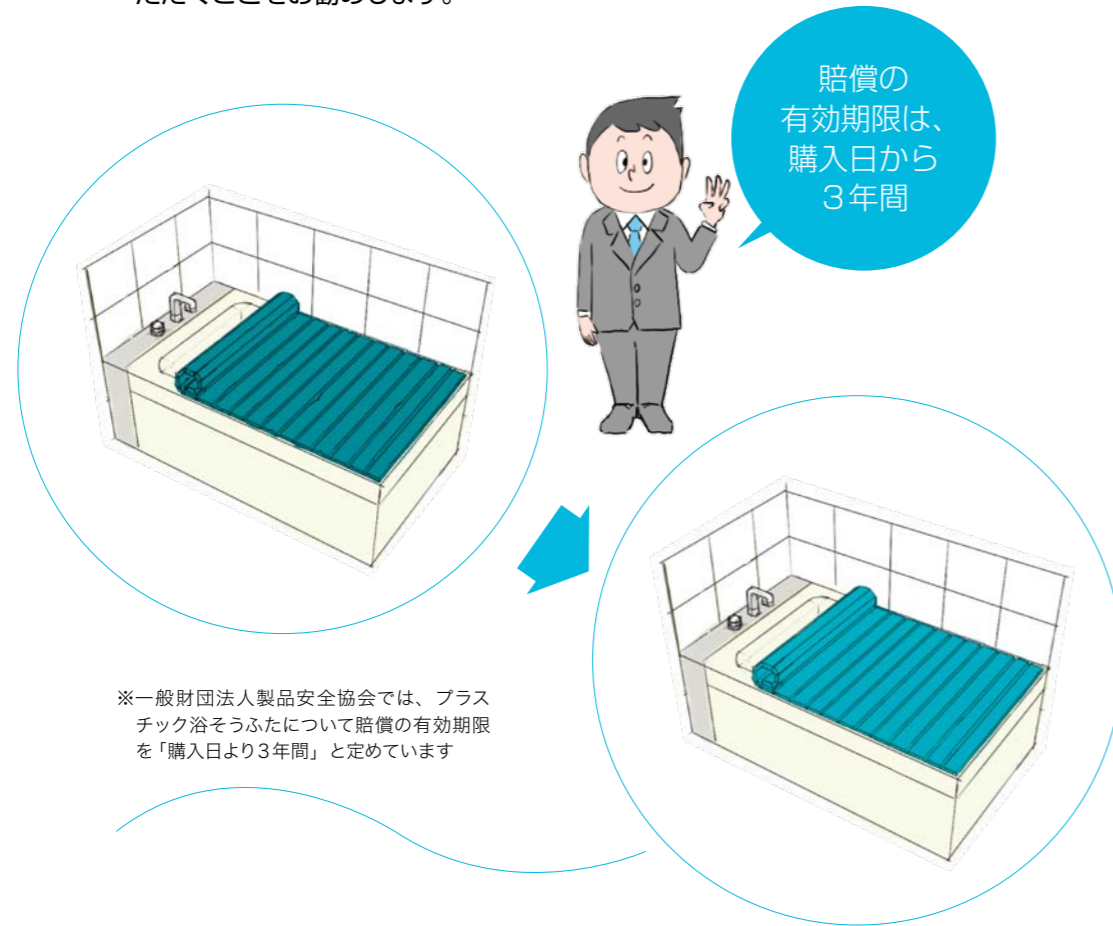


より安全にお使いいただくために

SGマーク付きの浴そうふたであっても、永久に安全に使用し続けることはできません。より安全に使用いただくためには、定期的買い換えをいただくことをお勧めします。



プラスチック浴そうふたには、**SG**マークが付いた製品を選びましょう！



SGマークって何？

SGマークは、Safe Goods（安全な製品）の略称で、一般財団法人製品安全協会が定めたものです。構造・材質・使い方などからみて、生命または身体に対して危害を与えるおそれのある製品について、安全な製品として必要なことなどを決めた基準を一般財団法人製品安全協会が定め、この基準に適合したものと認証された製品にのみ表示されます。

安全+認証=安心!!

SGマークの付いた製品が「安心」の理由

SGマークは、安全基準（SG基準）に合格していることを証するだけでなく、中立・公正な第三者機関が認証したことを証するマークです。また、SGマークを表示して発売された後も、定期的に市場製品テストや工場のフォローアップを行っています。SGマークが付いた製品は信頼性が高く、安心して使用いただけます。

※認証機関は一般財団法人製品安全協会、試験・検査機関は一般財団法人化学研究評価機構で、いずれも国が認めた公益事業を営む法人です



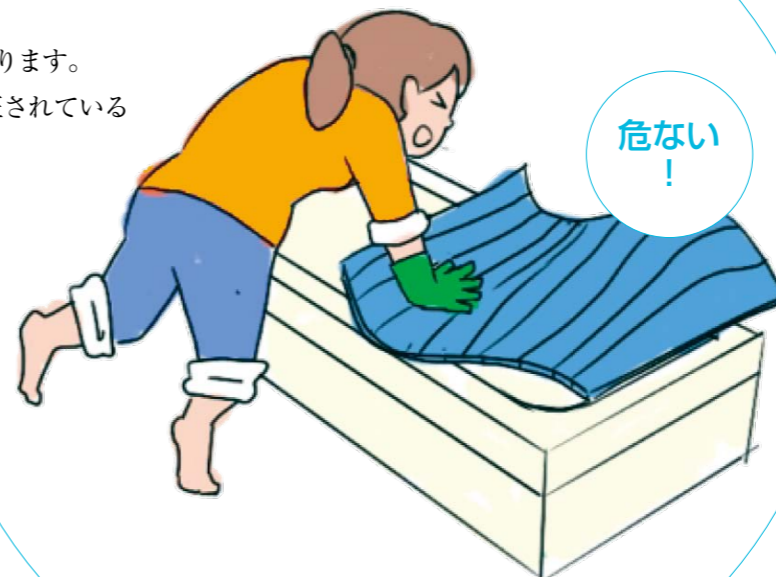
プラスチック浴そうふた こんな危険ありませんか？

もし、お子さんやお年寄りが浴そうふたに手をついた途端、たわんだり滑ったりして頭から浴槽内に落ちてしまったら…。プラスチック浴そうふたがSGマーク制度の対象となる以前は、そんな浴室内事故が珍しくありませんでした。

浴そうふたには、危険を伴うリスクがあります。だからこそ、SGマークによって安全が保証されている製品をお使いいただきたいのです。



浴そうふたには大きなリスクがあります！



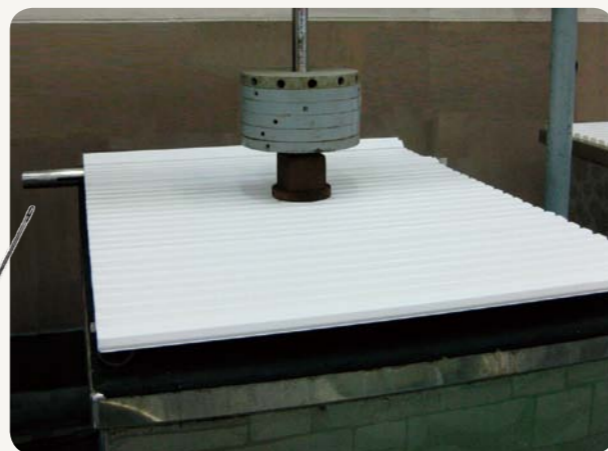
1972年から翌年にかけての1年間で、浴そうから浴そうふたが滑るなどして、浴そうに落下する事故が13件（死亡事故8件）発生しました。うち6件が浴そうふたに何らかの問題があるとされました。これを受けて、通商産業省（当時）は製品安全協会に調査を命じ、その結果、SGマーク制度での対応が適当と判断されました。2004年の新潟県中越地震以降、消防では、非常時の水源として浴そうへの水溜めを広く指導しています。転落事故を防ぐために、特に小さいお子さんのいる家庭では浴そうふたが重要な役割を果たします。

SG基準では様々な事故を予防しています！

SG基準は、学識経験者や消費者代表を交えた委員会で作成されます。製品リスクを低減するための要求事項を定めることにより、おおよそ次のような事故を事前防止しています。



CASE 1 曲げたわみ試験



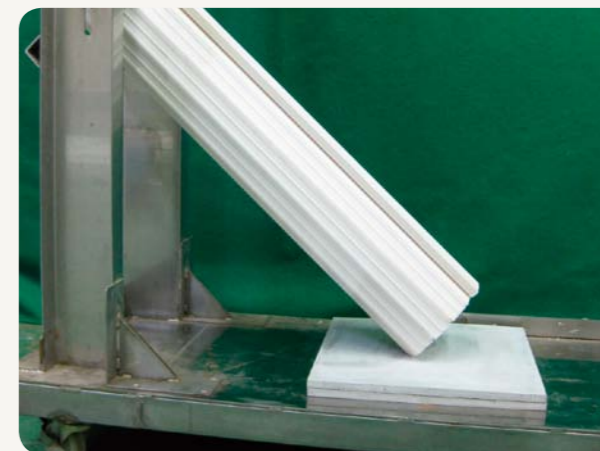
ふたの上面に手をついた途端、ふたがたわんで人が浴槽内に落下することを防止

CASE 2 すべり抵抗試験



ふたの上面に手をついた途端、ふたが滑って人が浴槽内に落下することを防止

CASE 3 落下衝撃試験



ふたが落下したときに割れて、鋭利な端部でけがをすることを防止

※これらのほか、耐熱性試験や警告表示、使用上の注意事項など、誤った使用をしないための注意喚起についても、SG基準で規定しています